

Der Wind

(風)

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局: 〒251-0025 藤沢市鵠沼石上 1-1-1

江ノ電第2ビル 7F

Tel: 0466-26-3028 Fax: 0466-27-5091

E-mail: jdgs@jcom.home.ne.jp <http://jdgs-shonan.ciao.jp/>

創立20周年記念行事

記念行事が始まりました。先ず2月25日、熱海にあるブルーノ・タウトの設計による日本に残る唯一の建築物「旧日向別邸」見学会。入場制限があり多くの参加希望者にお断りしたことは残念です。詳しい報告は次号に掲載予定です。

次いで、5月18日(金)鎌倉芸術館での記念コンサート。会員松野美智子さんのヴァイオリン演奏と15周年を迎える湘南日独協会混声合唱団「アムゼル」による祝賀行事に相応しい演奏を繰り広げます。詳細は同封しております、チラシをご覧ください。き早めにチケットの購入をお願いいたします。

9月8日(土)、9日(日)には2日間にわたって、次のようなプログラムが予定されています。

第1日は3つの講演を予定しています。これまでもご講演を頂いている、当協会の名誉会員ヨーゼフ・クライナー先生をお迎えして、日本人の起源、日本文化などをお話しいたします。具体的内容は皆様のご意見を聞き近く決める予定です。

次いで、私たちが学校で習い馴染んできた唱歌、童謡の中にはドイツ起源の歌が沢山あります。ドイツに長く在住し、合唱団アムゼルの創設にも関わった、会員の若林倅子さんのお話としてご参加の皆さんと、そのような歌を楽しみたいと企画しています。

もう一つの講演は、グリム童話・グリム兄弟の研究では世界的に知られ、日独交流にも長年携わっておられ、当協会での講演も頂いた橋本孝先生をお迎えしてのご講演です。

終了後には懇親会を開催する予定です。

第2日はドイツ人を迎えての座談会を開催します。最近、諸外国からの人たちと接する機会が格段に多くなりました。異なる言葉や習慣を持つ方々との接触は、時には誤解を生じながらも、多様で豊かな考えの源であります。当日は複数の在日ドイツ人を迎えて経験談をお聞きし、皆様と一緒に豊かさにつながる異文化理解について語り合う場を設けます。時間の許す限りオープンエンドの交流の機会としたいと考えています。より皆様のご意向に沿った内容とたく、企画への参加も歓迎いたします。

そして、ワインの時間です。(次頁に続きます)

湘南日独協会の行事予定

■Singen wir zusammen! 歌で楽しむドイツ語第57回

日時 3月18日(日) 15:00~16:30

会場 藤沢商工会議所ミナパーク 5階

会費 1,000円

■3月例会 講演会

「ブラジル日系人の今」

講師は元 JETRO のブラジル駐在員、帰国後も幾度か同国を訪問しています。ドイツ人移民の動向も織り込み、日系人の現況をお話し頂きます。

講師 中澤夏樹氏(会員)

日時 3月25日(日) 14:30~16:00

会場 湘南アカデミア 7F

会費 1,000円

懇親会 宗平 会費 4,500円

■Schwatzerei am Stammtisch 第39回

日時 4月10日(火) 15:00~17:00

会場 藤沢商工会議所ミナパーク 5階

会費 1,000円

■ケンペル・バーニー祭参加(箱根)雨天決行

日時 4月15日(日)

会費 2,000円 (図録、バッジ、昼食代等)

交通費は個人負担

1,600年代長崎のオランダ商館医師として来日、滞在中に商館長に随行、2度に亘り箱根を越え江戸参府を体験、帰国後「日本誌」を著し、広く欧州に日本を紹介したケンペルと、箱根を愛し、ケンペル著書序文を引用して石碑を建てた大正期の英国人貿易商バーニーの両者を讃える祭りへ、今年も参加します。今回、バーニーの孫、ロンドン在住アレキサンドラ・マナー夫妻が来日、出席予定です。

[参加プログラム]

08.20 JR 小田原駅改札口集合(会員関口、中村両による出迎えと同行) お勧めの列車: 藤沢発 07:31 もしくは 07:40 小田原着 08:02 もしくは 08:14 小田原から伊豆箱根バス利用、約1時間後元箱根着

(料金 1,180 円-昨年実績) 到着後興福院境内にて受付
(バス停より徒歩 1 分)

10.00 第 1 部式典

第 2 部 講演会 演題 「ケンペルの見たタカ
アシガニ」

第 3 部 立食懇親会

終了 14.30 乃至 15.00 の見込み

注意事項: カジュアルな服装、履物を着用下さい。雨
具、また、寒さ対策もお忘れなく。

照会先: 大澤理事 045-864-0104

勝亦理事 045-335-0334

■Singen wir zusammen! 歌で楽しむドイツ語第 58 回

日時 4 月 22 日 (日) 15:00~16:30

会場 藤沢商工会議所ミナパーク 5 階

会費 1,000 円

■年次総会

日時 4 月 29 日 (日) 14.00~15:00

会場 湘南アカデミア 7F

終了後映画会

映画「菩提樹」(前篇) 1956 年の西ドイツ映画 原題:
Die Familie Trapp 有名な米国映画「サウンドオブミ
ュージック」の原作と言える映画です

解説 西澤英男氏

会費 無料

■Schwatzerei am Stammtisch 第 40 回

日時 5 月 8 日 (火) 15:00~17:00

会場 藤沢商工会議所ミナパーク 5 階

会費 1,000 円

■創立 20 周年、アムゼル 15 周年記念コンサート

5 月 18 日 (金) 13:30 開演 (13:00 開場)

詳細は同封のチラシをご覧ください、チケットの購
入をお願いいたします。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

<前頁よりの続き>

創立 20 周年記念行事

ドイツワインのお話しと試飲 (Weinprobe):

ドイツワイン上級ケナーの賀久氏からドイツワインの
概要をお聞きし、パン、チーズ等をつまみながら、実際
に 6 種のワインの飲み比べをします。ワイン講演会では
なく、お喋りをしながら、和やかに楽しみたいと思っ
ています。皆様のワインにまつわる思い出なども、お聞か
せ下さい。ご参加をお待ちしております。

ワイマール独日協会会長夫妻と懇談

湘南日独協会と姉妹提携を結んでいるワイマール
独日協会の Peter Käckell 会長と夫人で同協会理事の
制野かおりさんが来日し、当協会の役員と両協会の関
係発展について 1 月 7 日、昼食を摂りながら懇談いた
しました。Käckell 会長は物性物理で学位を取得し、つ
くば市の産業技術研究所に 2 年間在籍し、アトムテク
ノロジー研究プロジェクトに参加した経歴を持つ知日
家で、現在は弁理士として活躍されておられます。制
野かおりさんは神奈川県出身で十数年前に渡独し、イ
エナ大学で職に就いた、現在も第一線で活躍する物性
物理の研究者です。

ワイマール独日協会は会員数約 60 名、去年 6 月に
Ingrid Bauhaus 前会長から現体制に変わり、現在、ホ
ームページの公開準備などを進めているとの事です。
席上、ワイマール独日協会から書道作品の展示などを
通した交流促進などいくつかの具体的提案がなされ、
当協会からも双方の会員の関心事について会員限定の
ホームページなどで情報提供してゆくなどのアイディ
アが出されました。滞在中の多忙なスケジュールの合
間を縫っての 3 時間余りの懇談でしたが、互いに顔の
見える交流をめざして連絡を取り合ってゆくことを約
して終了いたしました。



両会長の固い握手



歓迎会の開場前で出席者全員

会費納入とコンサート・チケット申し込み

2018 年度の会費納入振込票を同封しております
のでお早めに手続きをして下さい。なお、コンサ
ートのチケット申し込みも同じ振込票で出来るよう
にしておりますので、一緒にお振込みをお願いいた
します。チケットは確認後にお送り申し上げます。

1月例会

西沢英男さんの「史跡めぐりで中欧の歴史を探る」
を聴講して 会員 望月恭一



望月氏

松野会長から西沢さんは、バンカーとして西ドイツに赴任され、銀行のお仕事だけではなく、大陸を飛び回り、ヨーロッパの文化と歴史を学んできたという紹介されました。

1990年に退職なされ、それから10年間の旅の成果を報告していただけたということでした。

西沢さんの自己紹介では、30年間銀行に勤務、その内ドイツには数年駐在され、赴任してすぐ車を購入、大陸を飛び回り、ヨーロッパ文化を吸収されました。

寅さんの「男はつらいよ」映画看板集48作を常にカバンに入れて旅の友として、青きドナウやハプスブルクの国々、そしてドイツを歩き回ってきました。

ここから本題に入ります。

日本の関ヶ原の戦いに相当する「マルヒフェルトの戦」

1278年、この戦いで、ルードルフ1世がボヘミアのオットカル2世を破り、ハプスブルグ家は、オーストリアを拠点に支配権を拡大することになる。ルードルフ1世は、いかつい獅子鼻、唇は厚く、あごは、しゃくれているそうです。マルヒフェルトは、ウィーン郊外の辺鄙な平原で、古戦場あとには大きな記念碑があり、そこまで奥様とご一緒に足を延ばしました。

三十年戦争

アウスブルグの和議(1555)で、新旧両派〔新教同盟(ユニオン)と〔旧教連盟(リガ)〕の対立が解決されたかにみえたが、両派の反発は続き、プラハ城窗外放り投げ事件をきっかけに三十年戦争が始まる。①ベーメン・ブファルツ戦争(1618~23)→ドイツの内乱、②デンマーク戦争(1625~29)→国際戦争に拡大、③スウェーデン戦争(1630~35)→傭兵の戦い、④フランス・スウェーデン戦争(1635~48)→ハプスブルグ対ブルボン(政治戦争化)を経て、⑤ウェストファリア条約が1648年に締結された。

講和会議は、北西ドイツ、ウェストファリアの中心都市、ミュンスター市とオスナブリュック市で開かれ、会議は延々3年を要した。この戦争により、ドイツ(当時は神聖ローマ帝国)は極度に疲弊し、300以上に

及ぶ領邦国家に分裂し、宗教的対立は収まったものの、統一ドイツの成立(1871)までにはさらに2世紀以上の時間を要することになった。

両方の都市のRathaus(市庁舎)にあるFriedenssaal(講和条約が締結された広間)を訪問され、ミュンスターでは、展示絵画の中から若きルイ14世を発見したことや、Kellerのジャガイモスープがとても美味しかったことなど写真を交えてお話いただきました。

エムス電報事件

1870年7月ビスマルクが電報の情報操作によってドイツ・フランスの世論を刺激し、ナポレオン3世を戦争に踏み切らせ、普仏戦争のキッカケを作り、プロイセンが勝利した電報事件。風光明媚な町パートエムスから始まり、ドイツ統一へ大きな第一歩を踏み出す契機になった町。ライン河の東側、コブレンツのそばにある。

ショプロン(オーストリアとの国境にあるハンガリーの小都)ヨーロッパピクニック計画

1989年夏、白昼堂々東独市民を西側に脱出させ、ベルリンの壁崩壊の先駆けになったピクニック計画です。この裏方に、ハプスブルグ家のオットー大公が居り、大公のお嬢さんが代理を務めたそうです。

最後に以上のような歴史の大切な転換点を迎えた史跡や街の写真をを見せていただきました。

私は、一昨年のオクトパーフェストを紹介され、その会場で、SWZを知り、Trink, trink Brüderlein, trink!やWanderliedそしてRose Marieなどを毎月唄うことができるようになりました。もう少しドイツのことを知りたいと、昨年末当協会に入会しましたので、今後ともよろしくお願いします。

私にとって、ドイツの歴史は、複雑で、簡単には理解できないのですが、西沢さんのおかげで、一つ一つの事件に興味を持つようになり参考になりました。大変感謝しております。



講師の西沢英男さん(全面右より2人め)を囲んで

湘南日独協会創立20周年記念

アムゼルで歌う楽しみ

湘南日独協会混声合唱団「アムゼル」代表
会員 辻川一徳



辻川氏



梶井智子先生

合唱団「アムゼル」は2002年、当時の岩崎英二郎湘南日独協会会長の「協会の合唱団をつくってほしい」という要望に応じて発起人たちが動き始め、2003年に団員16名で発足したものです。同年2月に梶井智子先生を指導者に迎えて練習を始めました。それから15年、いまや団員は休会中の人も含め51名（実動46名）の大所帯に成長、5月18日、鎌倉芸術館小ホールで15周年記念コンサートを開きます。発足当初は歌える歌といえば「野ばら」と「ローレライ」だけだったそうですが、今ではモーツァルトやブラームスの相当高度な歌まで歌えるようになりました。

さて私はといえば、この草創期からのメンバーではありません。大学でドイツ語を学び、10年ちかくの海外勤務のうち1年間だけはベルリンで暮らしたことから、湘南日独協会が発足したとき入会しました。そして2002年に仕事を引退したとき、老後の活動の一つとして合唱をやってみたいと思ったのです。その夏、当時わが家の近所にあった「湘南ホテル」で開かれた日独協会のパーティに出席、ゲストとして招かれドイツの歌を歌った「湘南男声合唱団」の歌が気に入って入れてもらいました。当時まだアムゼルはまだ存在しなかったのです。

湘南男声合唱団は団員十数名の小さな合唱団ですが、メンバーは高校・大学の合唱部以来、半世紀以上歌ってきたというような「古つわもの」が多く、指導者の伊集院俊光先生は独自の「合唱美学」を持った「こだわりの指揮者」、原則アカペラで歌っています。合唱経験ゼロでその中に入った私は、先輩たちに一から教わりながら歌いはじめたのですが、日独協会のパーティで知り合った湘南アマデウス合唱団の団長・アムゼルの長老だった赤羽根恵吉さんから「もうアムゼルというものができたんだから、あなたも来なけりゃだめだよ」と言われ、

「はい」と言って入団したのが2003年秋のことでした。以来、私は合唱団としては二足のわらじをはいているわけです。

アムゼルの練習は原則奇数週のみ。毎週やっている湘南男声のそれにくらべると、要求されるものがだいぶ「ゆるい」気がします。でもそれは心地よいゆるやかさです。アムゼルが何より「日独交流」を目的とし、「楽しく歌う」ことをモットーとしている合唱団だからでしょう。

アムゼルで歌う楽しみの第一は、チャーミングな梶井先生のご指導だと思います。本来が声楽家の先生は、ときにみんなのあいだを走り回り、一人ひとりの顔をのぞきこんだりしながら、われわれの内部に眠っている「歌ごころ」を引き出し、歌う楽しさを教えてくださいます。伴奏の若い内海祥子さんが、「お雇いピアニスト」ではなく団の一員として、役員会にも必ず出席して団のことを知り、ともすればふらつきがちになるわれわれ年配者の声を支えてくれるのもアムゼルの強みのひとつです。そして唯一のドイツ人メンバー志賀リンデさんが、ミュンヘンっ子特有の陽気さでムードメーカーになり、またアムゼル団員のためのドイツ語クラスを開いたりしてくれています。梶井先生のドイツ語発音指導は定評のあるところですが、さらにリンデさんというお手本を得て、アムゼルの歌は毎年出演する「ふじさわ合唱祭」でも「発音はさすが」という講師の講評をもらっています。（ほめてもらっているのは発音だけではありません）。次頁へ続く



上の写真は昨年2017年の写真です。

2009年に初参加、その後毎年参加しています。
2018年も参加予定です。

さて、いまわれわれの目の前にあるのは、15 周年記念コンサート。2013 年に開いた 10 周年コンサート以来の大舞台です。そのために月 1 回練習日をふやしたりして努力してきました。あれから 5 年、一部のメンバーは入れ替わりましたが、みんな等しく五つ年をとりました。最長老は大正 13 年生まれの 93 歳、80 歳代が男性陣に 4 人、女性も、お年はうかがいませんが、複数いるはず。しかし歌うことは、とくにドイツ語で歌うことは体にも脳にもいいと信じて練習にはげんでいます。コンサート第 1 部の始まりは、われわれアムゼルの「ドイツ語で歌う日本の歌」、湘南日独協会創立 20 周年セレモニーのあと、日独協会会員のヴァイオリニスト松野美智子さんの演奏が入ります。第 2 部はアムゼルの舞台で、まずモーツァルト、ブラームスの歌曲、つづいて「美しき青きドナウ」や「すみれの花咲くころ」、映画「会議は踊る」の主題歌「ただ一度、だけ」、そしてオペレッタ「こうもり」からの曲など、皆様にもおなじみのメロディを歌います。最後のほうでは松野美智子さんにも加わっていただいて、われわれも暗譜で舞台を動き回り、楽しいフィナーレにしたいと思っています。どうぞご期待ください。



ステージでの演奏中



湘南オクトーバーフェストでの演奏



時には舞台上の動きのレッスンも

アムゼル総会後の新年会風景 (2018 年)



合唱団アムゼル団員募集

見学大歓迎です！

練習日 第 1 第 3 第 5 水曜日

午後 1 時 30 分～3 時 30 分

会場 藤沢カトリック教会

連絡先 水谷 ☎ 045-895-6845

合唱団アムゼルのこれまでの主な演奏活動

創立以来毎年湘南オクトーバーフェスト出演し、2009 年からは「ふじさわ合唱祭」に参加しています。ドイツ語の発音表現に評価を頂いています。

オクトーバーフェストと言えば、横浜が有名ですが、赤レンガ倉庫で始まった頃は「アムゼル」が 2004 年から 3 年間ミュンヘンからの楽団と共演しました。

ドイツとの縁はワイマールからの鎌倉への訪問団との交流会へは何度も参加し演奏をしています。ドイツからのジルヒャー男声合唱団、ウルマーカンマーアンサンブルとの共演もありました。

日独交流 150 周年を記念しての、大使館主催の行事では東京有栖川記念公園での演奏をし日本全国で日独協会の合唱団としては唯一の存在が広く知られています。

寄稿 マイントツから

ヴィーガン Vegan

会員 長谷川孔一郎



筆者



ドイツの有機野菜

今回の寄稿テーマはヴィーガン(Vegan)です。日本ではあまり聞き慣れない言葉だと思いますが、ドイツでは知らない人がいないほど日常で使われている言葉です。

ヴィーガンとは肉、魚はもちろんのこと乳製品や卵を摂取しないという一つの生活スタイルです。さらにただ動物由来のものを口にしないだけでなく、動物由来の製品(皮製品等)をも身に付けないこと、水族館や競馬など動物が人間の娯楽として”使われる”ことを否定しています。ベジタリアンが菜食主義ならばヴィーガンは完全菜食主義です。ちなみにベジタリアンは肉、魚のみの制限です。ヴィーガンの主な信条として「動物を殺すことなく生活していく」といった動物愛護の観点からや、畜産業が環境に悪影響を与えていると言った環境保護のためなどが挙げられます。自身の健康の為という人もいます。

環境問題と畜産の関連として、例えば穀物1キロを生産するのに必要な灌漑用水は約1800リットルと言われており、こうして得られた穀物を飼料として牛は大量に消費するので、牛肉1キロを生産するのに約20000倍もの水が使われます。身近なもので例えると牛丼一杯2000リットルの水が使われています。さらに家畜の排泄物には病原菌や寄生虫の卵が含まれている事があり、人や家畜に感染の恐れがあります。排泄物中には雑草の種子が含まれていることがあることと、土壌での分解中にガスが発生することで、作物の生育障害を引き起こします。その他にも飼育施設や屠殺場も多くの土地を占めています。

動物愛護の観点で見れば肉の消費、生産が以前より増えたことにより、できるだけ安くそして大量に生産するために現在ほとんどの畜産は放牧ではなく工場生産されています。工場で育つ動物は法律で保護される事ではなく、生き物としてではなく利益の為の商品として扱われます。

その為一生を狭い檻の中で過ごし、病気があれば”不良品”と見なされ商品にならないので生きたままゴミ箱に捨てられます。そして商品になる動物はコスト削減のため麻酔なしで屠殺、加工されます。さらに迅速に大きく育てるために人工的な光を当てて体のサイクルを狂わせて食欲増進させ、成長促進の餌を効率的に与え、ほとんど動けない環境で短期間にブクブクと太らせます。成長スピードについていけない鶏もいるので、重すぎた体を支えられずに立てなくなったり、心臓疾患や肺の圧迫による病気などの問題を抱える鶏が多数に及ぶそうです。もともと1925年頃は成長に16週間かかり体重もわずか1.1kgくらいしかなかったそうです。それが、なんと現在ではわずか6週間で成長し、体重も倍以上の2.5~3.0kgにまで成長する鶏に変化したそうです。成長促進の為の薬や、病気の感染を防ぐ為の抗生物質など薬付けにされている事もあります。知らぬ間に抗生物質を摂取していて、いざ自分が病気になった際に病院で処方された抗生物質が効かないなんて事もあり得るかもしれません。

ただヴィーガンが愛用している石油製品も環境にさらに悪影響だとの意見もあります。

タンパク質は肉、魚からというイメージがありますが豆やナッツ類、野菜にも含まれています。私たちが普段食べている牛や豚、鶏は植物からタンパク質を摂取しています。現に馬や象、ゴリラといった比較的大きな動物は草食として知られています。

これらの事から結論として導きだす事は肉食が悪で、皆がベジタリアンやヴィーガンにならなくてはならないという事ではなく、普段の自分たちの行動に対して疑問を持つ事。そして知りたくない真実から目を背けるのではなく向き合って、どのようにしてより良くしていくのかを考えることが大切だと思います。最終的な決断は自分にあります。下した決断の責任は自分で負わなくてはなりません。

ドイツ語講座へのお誘い

ドイツ語を初めて学ぶ方から、ドイツ文学を読むことまで、色々な皆様のご要望に合わせたクラスがあります。4月からのコースの受講生募集を受けて受けています。同封のドイツ語講座の御案内をご覧くださいお問い合わせください。仲間が待っています！

ブレーマーハーフェン

志賀トニオ氏



ワイマールの象徴「国民劇場」とワイマール時代の筆者

今日は久しぶりに我がブレーマーハーフェン歌劇場のシンフォニーコンサートに行ってきました。毎シーズン8回ある定期公演のうち、今回は5回目。最大のお目当てはソロオーボエ奏者 Ramon Ortega Quero。母校ロストック音大の同僚で、当時若干19歳で1位をなかなか出さない事で知られるミュンヘンの世界的コンクールで40年ぶり、史上3人目のオーボエ部門1位に輝いた逸材である。音大時代には、時間さえあれば彼の演奏を必ず聞きに行ったものだが、そんな彼がここブレーマーハーフェンで Richard Strauss のオーボエ協奏曲を演奏するというのだ。ワクワクしながら会場へ向かい、今日は時間があつたのでじっくりとプログラムの曲目解説を読んでみる。今日のプログラムは前半が Richard Strauss の Metamorphosen とオーボエ協奏曲。後半がブラームスの交響曲3番。1曲目の Metamorphosen は第2次世界大戦末期に書かれた曲で、ミュンヘン郊外の山荘に暮らしていた晩年の作曲者が次々と破壊されていく祖国に絶望し、彼の愛したドイツ文化の死を表したものである。その作曲中に書かれた手紙の一文をプログラムノートからそのまま引用しよう。” Ich bin in verzweifelter Stimmung. Das Goethehaus, der Welt größtes Heiligtum, zerstört! Mein schönes Dresden-Weimar-München, alles dahin!” 私は絶望しています。世界でもっとも崇高なゲーテの家も破壊されました。私の愛するドレスデン、ワイマール、ミュンヘンは壊滅です”。

そしてここからが今回の本題、私がドイツで最初にプロの音楽家として仕事を始めたワイマール国民劇場のお話しです。湘南日独協会及び鎌倉市とも姉妹提携しているワイマールはドイツ人にとって特別な存在のようです。

谷にあり、人口わずか6万人の町であるのに、上記のように大都市と並んで語られる存在なのである。ご存知のようにドイツの歴史上最大の文豪ゲーテの町として知られているが、他にもベートーベンの第9の作詞家として有名なシラー、音楽家ではバッハ、リスト、ワーグナー、上記のリヒャルトシュトラウス等、数多く活躍しました。そして日本人がよく知る1919年制定のワイマール憲法は歌劇場に於いて調印されました。そのワイマール国民劇場の正式名称は” Deutsches Nationaltheater Weimar “。ここで使われている” Nationaltheater “という名称はワイマールとマンハイムの劇場にのみ与えられた特別なものです。マンハイムはモーツァルトの時代に世界一と言われたオーケストラがあつた町で、モーツァルトはパリに行く途中に訪れて多大な影響を受けています。彼の31番以降の偉大な交響曲はこの訪問抜きには生まれなかったでしょう。

そして、その伝統あるワイマール国民劇場の合唱アシスタントとして私のキャリアは始まる事になる。ここで劇場の合唱団について少し解説しておきましょう。ドイツの歌劇場では、その規模に応じた合唱団の大きさがあり、当然その規模に合わせて合唱監督が配置される。ミュンヘンやベルリンのように100人規模の合唱団の場合、第1合唱監督、第2合唱監督、合唱アシスタントの3人が配置される。合唱アシスタントを配置できるのは合唱団員45人以上の劇場で、ワイマールはそのぎりぎりライン。それ以下の人数の場合、合唱監督が一人で受け持つ事になる。これは指揮者とピアニストの分業が基本の日本との大きな違いである。ちなみにここブレーマーハーフェンの合唱団員は20人。さて、そのワイマールでの合唱アシスタントの仕事内容を紹介しましょう。一番主な仕事は合唱監督が指揮し音楽指導する合唱稽古でピアノを弾く事である。ここで習うのは合唱団の伴奏方。最も重要なのが安定したテンポと和音を際立たせること。細かい音符等は省略し、合唱団に必要な音を拾って弾く。これが出来るようになると、ピアノの弾き方一つで合唱団がいつの間にか歌えるようになり、本番の指揮者やオーケストラが不安定になっても絶対に崩れない出来栄になる。もう一つの仕事はパート練習の分担。音楽監督と分担して各声部に分かれて細かい練習をする。それから、規模の小さい劇場には劇場専属のアマ

チェア合唱団を有している事が多くこちらも週に一回程度指導しなければならない。これは規模の大きい合唱を必要とする演目を上演する時の補足要員となります。そして私が所謂合唱監督として任されたのが少年少女合唱団の指導。オペラの演目では少なからず子供の合唱が必要とされるので、その為の稽古をしなければなりません。私が最初に取り組んだのがブッチーニのオペラ”トゥーランドット”。町にある Goethe Schule という名の学校まで毎週指導に通い、イタリア語のテキストや音取りから始め、プロのレベルとして通用するまでにしなければならない。もちろん普段その学校で毎日指導している先生がいるのだが、オペラの舞台に出るとなると演技もしなければならないし、なかなか大変である。それらの仕事を毎日無我夢中でこなし、仕事場での評価も上々で、当初3か月の契約だったのが10か月に延びる事になる。結局その10か月で契約を終える事になるのだが、ワイマールの劇場で働いたという経験と経歴を得たのは大きな財産になり、その後オーディションを受ける為に必要な招待状を受け取るための最大のカードとなったのである。



トニオさんとお母様のリンデ(志賀ギゼリン)さん

Deutsche witze

Auf dem Weg zum Garten findet Oma einige Rossäpfel und nimmt sie in einem Eimer mit. Fritzchen fragt sie: „Was machst du mit dem Pferdemit?“ Oma antwortet: „Die kommen auf die Erdbeeren!“ „Komisch“, sagt Fritzchen, „Mama tut da immer Sahne drauf!“

菜園に行く道で、お婆ちゃんが馬糞を見つけ、それをバケツに入れて持って行く。フリッツ坊やがそれを見て、「おばあちゃん、馬糞で何をやるの？」おばあちゃん、「イチゴの上にかけてやるんだよ！」フリッツ坊や、「おかしいなあ、ママはいつも生クリームをかけるのに！」GKK

ドイツ・ゲッティンゲン少年合唱団 のコンサートのお知らせ

日時 2018年3月28日(水) 開演 13:30

会場 鎌倉雪の下教会

göttinger
chor



ドイツ・ゲッティンゲン少年合唱団
日本コンサート・ツアー

徳島 広島 京都 鎌倉 日立 水戸 東京

DONA NOBIS PACEM 平和を与えたまえ

バッハ、ヘンデル、メンデルスゾーン、バルトルディ、ヘルツォーク他

鎌倉コンサート

2018年3月28日(水)

開場13:00 / 開演13:30

日本基督教団 鎌倉雪ノ下教会

鎌倉市小47-1 113-35
電話: 0467-73-0852



ゲッティンゲン少年合唱団がドイツの誇る伝統ある最高の音楽をお届けします。
天使のような少年の内にあなたは癒されることでしょう。

入場料: 山口に座席の番号が記されています。



Logo of Niedersachen, SCREEN, LGS, and ottobock.

編集後記

- 創立20周年の記念行事も始まりました。2月の熱海ブルーノ・タウトの業績を訪ねては、企画の良さで多くの方々の希望がありました。次号その模様をお知らせします。
- 5月のコンサートまで3ヶ月を切り合唱団アムゼルも舞台での動きも加わり猛練習です。楽しみにして下さい。アムゼルについて今回の特集でご理解が深まり、関心を持って頂けるものと思います。見学歓迎です。
- コンサート当日の会場でのお手伝いを頂ける方を探しています。連絡をお待ちしています。
- 4月新年度を迎え総会を開催します。総会后映画会があります。是非ご参加下さい。
- ドイツ語講座も新学期です。講座はそれぞれ特色がありますのでご自分に合った講座が見つかるのではないのでしょうか。
- 花粉症の季節で悩まされています。加えて目のトラブルを抱え今回は苦勞しました。 大久保